

日米医学医療交流財団 留学助成

A 項 研修報告書 (2009年度 助成者)

作成日 2012年 7 月 19日

氏 名	三橋 弘嗣
研修先機関名	University of Calgary Foothills Medical Centre University of Toronto Sunnybrook Health Science Centre
研修期間	2009/7/1-2012/6/30
現在所属機関名	聖路加国際病院
分野	循環器内科 心臓血管カテーテルインターベンション
役職	医幹
	<p>3年間の clinical fellowship program を修了し、日本で interventional cardiologist として仕事を始めました。財団の皆様を始め、多くの方々のご支援によって留学がうまくいきましたことを御礼申し上げます。</p> <p>最初の2年は University of Calgary にて冠動脈ステント留置術を基本から手取り足取り教えていただき 1000 症例を経験させていただきました。多くの症例をこなすだけでなく症例ごとの指導医、心血管カテーテル専門ナースとの discussion、毎週1回ずつの症例検討会、論文抄読会、最新エビデンス発表会で臨機応変に考えるトレーニング、知識のグレードアップやプレゼンテーションのトレーニングなども受けることができました。内容はぎっしりで寝る時間もないほど忙しい日々でしたが本当に多くの貴重なトレーニングを受けることができました。さらに所属施設だけでなく、カナダやアメリカの学会やメーカーの協賛によって fellow は無料でトレーニングセッションを1年に2回受けることができます。1週間泊まり込みで朝から晩まで1日中最新エビデンス、手技の注意点、合併症などの講義、指導医と一緒に simulator や動物を用いて症例を行う hands-on トレーニングが含まれており非常に役立つ内容でした。もちろん臨床的トレーニングに留まらず臨床研究も clinical fellow は行う義務になっていて約2万症例の冠動脈ステント留置術のデータ解析を任せられました。</p> <p>最後の1年は新しい心臓カテーテル治療として注目されている弁膜症のカテーテル手術を advanced fellow としてトレーニングを受けました。ヨーロッパで発祥した手技でありカナダでも早期から手技が行われており運よくトロント大学に採用していただき症例コンサルトを150件、経カテーテル大動脈弁留置術を50症例と経カテーテル僧帽弁修復術を20症例、バルーン大動脈弁拡張術を20症例経験することができました。また、これらの手技のデータベースの立ち上げを任せられ、多くの最新のデータも得ることができました。指導医だけでなく病棟、カテーテル室ナース、業者から派遣されている specialist の方々とも private な部分も含めて親切にさせていただきました。</p> <p>とても有意義な3年間であったと思います。今後は指導医としてカナダで学んだ知識、技術を伝承していきたいと考えています。これからも少しでも多くの先生方が海外で洗練された教育を受け、日本の研修医や研修後の医師に教育されていくことを願っています。</p>

